

去る人・残る人・来る人

或る處での話

むかし近衛公が將軍家に所用あつて江戸に上つた。用事でたが歸りの路銀がないので發足せないで居ると殿中の茶房生落首を詠んだ。近衛さかさに讀めば「ノコ」どの、ぶらくせずに早く立つ。

すると近衛公の茶坊主も負けては居なかつた。磨と老坂越えし身ではなし金を握つてはすぐに立つ。

金を握つても中々立たない中島さんは一体どうしたのだらふ。

△△とう／＼往きますかなあ隨分各方面にウルサイ人たが……。

記者全くです随分ウルサイ人でした。

△△中島さんが歸るについて悦んでるのは高岡さんとあなたとタック二人だと黒石君は云つてますか……。

記者どうしてどうして、高岡君は知りませんが私などは大反対です。中島君が歸つてしまふと新聞種がなくなり當分の間は張合はありません。あれから云ふ人が居てくれるといや新聞には都合がよいですよ。それからそれとタネを持つてくれるので……。

△△それから一ツ日伯由留任運動を起しちゃ。

記者マサカね、だがこうなると氣の毒です。まあ運が悪かったと云ふのでしょうか。

△△それ何時立つんですか

記者四五日前社の若い者がちかに中島君に打付つて皮肉な事をやるから、それが済んでしまつたと云ふのですか

△△それで何時立つんですか

記者答へたそです。旅費まで來るまで居るから、その気で居るでしやう。

△△それで後はどうなるんですか。川西領事が代理をするんでしやうね。

記者本來なら無論そうなのであります。どうもオカシイんですね。今日まで鬱陶の來ぬところを見ると。だつて本人はその氣で居るでしやう。

△△それで後はどうなるんですか。川西領事が代理をするんでしやうね。

記者本來なら無論そうなのであります。どうもオカシイんですね。今日まで鬱陶の來ぬところを見ると。だつて本人はその氣で居るでしやう。

△△それで後はどうなるんですか。川西領事が代理をするんでしやうね。

記者本來なら無論そうなのであります。どうもオカシイんですね。今日まで鬱陶の來ぬところを見ると。だつて本人はその氣で居るでしやう。

△△それで後はどうなるんですか。川西領事が代理をするんでしやうね。

記者無論です。本人だけです。

時だつ成る可く知らせ度く

△△どう云ふ譯ですかねえ。

そんなことは少しも置く必要はないやうに思はれます。

記者さあそこがハッキリようやらない所の人の癖でしやう。

若し私などが中島君の位に居たとしたら、歸朝命令

申開きの出来ないやうなこと

のですが、鬼に角大して怪我せぬ内

にこれも早く歸る方がよかないと申つかれていますが、バウルの濱口も三月の異動送りでしやう。後任は

△△海本徵雄ですか、濱口も大分くたびれましたし、あと口

△△が軽く空手形を開發しきや始

月の異動送りでしやう。後任は

△△アハハ牧君を鍛冶めです

記者鬼に角大して怪我せぬ内

にこれも早く歸る方がよかないと申つかれていますが、バウルの濱口も三月の異動送りでしやう。後任は

△△海本徵雄ですか、濱口も大

△△が軽く空手形を開發しきや始

月の異動送りでしやう。後任は

△△アハハ牧君を鍛冶めです

記者鬼に角大して怪我せぬ内

にこれも早く歸る方がよかないと申つかれていますが、バウルの濱口も三月の異動送りでしやう。後任は

△△海本徵雄ですか、濱口も大

△△が軽く空手形を開發しきや始

月の異動送りでしやう。後任は

△△アハハ牧君を鍛冶めです

記者鬼に角大して怪我せぬ内

にこれも早く歸る方がよかないと申つかれていますが、バウルの濱口も三月の異動送りでしやう。後任は

△△アハハ牧君を鍛冶めです

記者鬼に角大して怪我せぬ内

△△アハハ牧君を鍛冶めです

記者鬼に角大して怪我せぬ内

にこれも早く歸る方がよかないと申つかれていますが、バウルの濱口も三月の異動送りでしやう。後任は

△△アハハ牧君を鍛冶めです

記者鬼に角大して怪我せぬ内

△△アハハ牧君を鍛冶めです

記者鬼に角大して怪我せぬ内

にこれも早く歸る方がよかないと申つかれていますが、バウルの濱口も三月の異動送りでしやう。後任は

△△アハハ牧君を鍛冶めです

記者鬼に角大して怪我せぬ内

△△アハハ牧君を鍛冶めです

記者鬼に角大して怪我せぬ内

にこれも早く歸る方がよかないと申つかれていますが、バウルの濱口も三月の異動送りでしやう。後任は

受難の一周年を

單一農より多角經營法へ

農業界未曾有の受難に終始した昭和五年は暮れたまゝ未だ未だ大底をいれてゐないときへ云はれる。昭和六年が果して農村に何を與へるか、——もちろん豫知得る限りでないが、少くとも十分の覺悟を以てのぞまねばならぬ事態にある事だけは確かである。こゝに受難の一周年を見事切抜けた農家の經營振りを照會して参考に資さう。

肥料の自給が第一

例年より働いたのが第一

青森縣の小作兼自作農

今時稻作を主体としての小作人が

が「去年は儲かつたぞ」なんて云はうものなら仲間から異端者

振りひされる。然し「米一俵」の前市助役の中山泰秀氏が村長時

七、八年前までは年々金肥四百

石を購入したものが現弘

の國太郎さんの話によると

が「儲かつた農家」なんて云はうものなら仲間から異端者

振りひされる。然し「半歳雪」の前市助役の中山泰秀氏が村長時

七、八年前までは年々金肥四百

石を購入したものが現弘

の國太郎さんの話によると

が「儲かつた農家」なんて云はうものなら仲間から異端者

振りひされる。然し「米一俵」の前市助役の中山泰秀氏が村長時

七、八年前までは年々金肥四百

石を購入したものが現弘

の國太郎さんの話によると

が「儲かつた農家」なんて云はうものなら仲間から異端者

春を迎へた一農家が三浦郡初聲村にある。夫婦の外に十五歳の女、十三歳の男、十一歳の女、三児をかゝえて田四反二畝、畑一町五反、山林一町七反とそれに馬一頭、鶏八羽を管理して百十五四七十四錢の純利益を收めてゐる。氏の經營は特産三浦大根と馬鈴薯の栽培を主力を注いでゐる。それは暖かい半島の地の利を巧にとらへた知的經營

商品を粗末にしたがつて、安い上に數量を減じ、損失を倍にして終ることなど平凡なことが然ら心がけ次第だと思ふ。一般的に生産物が潤澤な時は出荷を早めて運搬費と少い。又販賣價格が安いと自然に選択するかを知るのは容易である。販賣價格が安いと自然に選択するかを知るのは容易である。販賣價格が安いと自然に選択するかを知るのは容易である。販賣價格が安いと自然に選択するかを知るのは容易である。

商品を粗末にしたがつて、安い上に數量を減じ、損失を倍にして終ることなど平凡なことが然ら心がけ次第だと思ふ。一般的に生産物が潤澤な時は出荷を早めて運搬費と少い。又販賣價格が安いと自然に選択するかを知るのは容易である。販賣價格が安いと自然に選択するかを知るのは容易である。販賣價格が安いと自然に選択するかを知るのは容易である。

一、兵役に關係あるの故を以て解雇するを得ざる事。二、解雇する場合は三ヶ月以上手當を支給する事。三、除隊兵が除隊の日より七十日以内に復職を希望する時は故無く之を拒絶せぬ事。四、解雇する場合は三ヶ月以上手當を支給する事。

十日以内に復職を希望する時は故無く之を拒絶せぬ事。二、解雇する場合は三ヶ月以上手當を支給する事。三、除隊兵が除隊の日より七十日以内に復職を希望する時は故無く之を拒絶せぬ事。四、解雇する場合は三ヶ月以上手當を支給する事。

十日以内に復職を希望する時は故無く之を拒絶せぬ事。二、解雇する場合は三ヶ月以上手當を支給する事。三、除隊兵が除隊の日より七十日以内に復職を希望する時は故無く之を拒絶せぬ事。四、解雇する場合は三ヶ月以上手當を支給する事。

十日以内に復職を希望する時は故無く之を拒絶せぬ事。二、解雇する場合は三ヶ月以上手當を支給する事。三、除隊兵が除隊の日より七十日以内に復職を希望する時は故無く之を拒絶せぬ事。四、解雇する場合は三ヶ月以上手當を支給する事。

十日以内に復職を希望する時は故無く之を拒絶せぬ事。二、解雇する場合は三ヶ月以上手當を支給する事。三、除隊兵が除隊の日より七十日以内に復職を希望する時は故無く之を拒絶せぬ事。四、解雇する場合は三ヶ月以上手當を支給する事。

十日以内に復職を希望する時は故無く之を拒絶せぬ事。二、解雇する場合は三ヶ月以上手當を支給する事。三、除隊兵が除隊の日より七十日以内に復職を希望する時は故無く之を拒絶せぬ事。四、解雇する場合は三ヶ月以上手當を支給する事。

◇ 母國近信 ◇

薯はその反対に他地方が

と早く四月下旬に出荷し得るか

である。自分は慧意な種屋や農業技術が非常に進歩した今

日、販賣の方法、時期、販賣

先に注意する事、作物の選

作物の多寡を知り、その

からうか。他でどんな作物を

は一般に芳しくない。

法である。

即ち大根は他地方が

警察権を置くことは教育の本旨

止まる時、京濱地方嚴冬唯一の

に反対するの意見もあり、餘り

に反動的な建議であると世評

は語る。

地主はその反対に他地方が

と早く四月下旬に出荷し得るか

である。自分は慧意な種屋や農

業技術が非常に進歩した今

日、販賣の方法、時期、販賣

先に注意する事、作物の選

作物の多寡を知り、その

からうか。他でどんな作物を

は一般に芳しくない。

法である。

即ち大根は他地方が

警察権を置くことは教育の本旨

止まる時、京濱地方嚴冬唯一の

に反対するの意見もあり、餘り

に反動的な建議であると世評

は語る。

地主はその反対に他地方が

と早く四月下旬に出荷し得るか

である。自分は慧意な種屋や農

業技術が非常に進歩した今

日、販賣の方法、時期、販賣

先に注意する事、作物の選

作物の多寡を知り、その

からうか。他でどんな作物を

は一般に芳しくない。

法である。

即ち大根は他地方が

警察権を置くことは教育の本旨

止まる時、京濱地方嚴冬唯一の

に反対するの意見もあり、餘り

に反動的な建議であると世評

は語る。

地主はその反対に他地方が

と早く四月下旬に出荷し得るか

である。自分は慧意な種屋や農

業技術が非常に進歩した今

日、販賣の方法、時期、販賣

先に注意する事、作物の選

作物の多寡を知り、その

からうか。他でどんな作物を

は一般に芳しくない。

法である。

即ち大根は他地方が

警察権を置くことは教育の本旨

止まる時、京濱地方嚴冬唯一の

に反対するの意見もあり、餘り

に反動的な建議であると世評

は語る。

地主はその反対に他地方が

と早く四月下旬に出荷し得るか

である。自分は慧意な種屋や農

業技術が非常に進歩した今

日、販賣の方法、時期、販賣

先に注意する事、作物の選

作物の多寡を知り、その

からうか。他でどんな作物を

は一般に芳しくない。

法である。

即ち大根は他地方が

警察権を置くことは教育の本旨

止まる時、京濱地方嚴冬唯一の

に反対するの意見もあり、餘り

に反動的な建議であると世評

は語る。

地主はその反対に他地方が

と早く四月下旬に出荷し得るか

である。自分は慧意な種屋や農

業技術が非常に進歩した今

日、販賣の方法、時期、販賣

先に注意する事、作物の選

作物の多寡を知り、その

からうか。他でどんな作物を

は一般に芳しくない。

法である。

即ち大根は他地方が

警察権を置くことは教育の本旨

止まる時、京濱地方嚴冬唯一の

に反対するの意見もあり、餘り

に反動的な建議であると世評

は語る。

地主はその反対に他地方が

と早く四月下旬に出荷し得るか

である。自分は慧意な種屋や農

業技術が非常に進歩した今

日、販賣の方法、時期、販賣

先に注意する事、作物の選

作物の多寡を知り、その

からうか。他でどんな作物を

は一般に芳しくない。

法である。

即ち大根は他地方が

警察権を置くことは教育の本旨

止まる時、京濱地方嚴冬唯一の

に反対するの意見もあり、餘り

に反動的な建議であると世評

は語る。

地主はその反対に他地方が

と早く四月下旬に出荷し得るか

である。自分は慧意な種屋や農

業技術が非常に進歩した今

日、販賣の方法、時期、販賣

NIPPAK SHIMBUN

Jornal Japonez de maior circulação no Brasil

Ano XVII

São Paulo — Quinta-feira, 5 de Fevereiro de 1931

Num. 714

NIPPAK SHIMBUN

Propriedade e direção de:

SACK MIURA

Redactor da pagina brasileira José Soté

Redação, Administração e Oficinas

Rua da Liberdade, 146

Caixa Postal, 375

Telephone, 2-3926

Endereço Telegráfico "NIPPAK

SÃO PAULO - BRASIL

ASSINATURAS

Para o Brasil:

Por anno 30\$000

Por semestre 16\$000

Numero avulso \$500

Para o Exterior:

Por anno 60\$000

ANNUNCIOS

Temos à disposição dos interessados uma tabela completa de preços para anúncios nesta folha. Telephone 2-3926

S. Paulo num decennio

O comércio exterior de São Paulo, no último decennio, foi de um alcance impressionante. Em 1919 as importações feitas pelo Estado atingiam a 613.000 contos, subindo as exportações a 860 mil. Dez anos depois, isto é em 1929, as importações haviam por 1.407.000 contos e as exportações eram registradas com a admirável cifra de 2.097.000 contos.

onde se conclui que, tanto as importações, como as exportações, tiveram, em dez anos, o aumento de mais do dobro.

Em 1919 São Paulo importava, de vários Estados da federação, mercadorias no valor de 145.000 contos e embarcava, para os mercados das mesmas unidades federativas, produtos avaliados em 100.000 contos. Ao curso de dez anos, as compras paulistas representavam 601.272 contos e as vendas somavam 420.904 contos.

Ao passo que o intercâmbio exterior cresceria 200% o de cabotagem subiu a 400%, quer nas vendas, quer nas compras. Em 1919 as importações paulistas de outros Estados eram de 172 milhões de kilos. Em 1928 registravam 529.000.000 de kilos. A diferença, em aumento, era de mais de 300%. As exportações passaram de 47.000.000 para 160.000.000 de kilos.

Excursionistas Argentinos

Vindo de Buenos Aires chegou ao nosso porto, a 28 do mês passado, o vapor japonês "Rio de Janeiro Maru", que iniciou um cruzeiro de recreio para excursionistas argentinos.

E' essa a primeira viagem ao redor do mundo organizada pela "Osaka Shosen Kaisha", sob a direção do sr. A. T. de Souza, gerente da secção de turismo daquela companhia, principalmente com o intuito de pôr em contacto mais directo os vários países da América do Sul com o Japão, afim que desse melhor conhecimento reciprocamente surjam novas possibilidades para intensificar o seu intercâmbio comercial, intelectual e artístico.

Por isso, ao regressar dessa primeira viagem de propaganda e é reservada a excursionistas argentinos, o sr. A. T. de Souza manecerá no Rio de Janeiro, tanto o mês de Julho proximo, tempo necessário para alli provar e organizar a segunda excursão, desta vez brasileira.

O "Rio de Janeiro Maru", o vapor para tal fim escolhido, deve-

Notícias e telegrammas do Japão

(Serviço especial do NIPPAK SHIMBUN e dos jornais)

A fundação de um Observatorio Astronomico no Brasil

A iniciativa do dr. Issei Yamamoto, da Imperial Universidade de Kioto

TOKIO, 29, Janeiro — O dr. Issei Yamamoto, segundo anuncia hoje, irá brevemente fundar um Observatorio Astronomico no Brasil. Esse observatorio terá carácter astronomico e o dr. Yamamoto é o director de um estabelecimento congenere, pertencente a Imperial Universidade de Kioto, com sede em Kwasan.

Ao dar essa informação, o dr. Yamamoto declarou que pretende visitar o Brasil brevemente, afim de examinar o lugar escolhido para o observatorio, acrescentando que a maior parte da sombra exigida para isso já fora conseguida.

O astronomo explicando as razões desse empreendimento no Brasil, disse:

«Projectava, há annos, estabelecer um observatorio astronomico no Brasil, ou mais precisamente no Equador. A maioria dos observatorios modernos fica nas regiões temperadas, nos hemisferios norte e sul, tendo sempre o obstaculo da visibilidade celeste, localizados como estão muito ao norte, onde não são visíveis as estrelas do sul, ou muito no sul, onde não se vêm as estrelas do norte.

Minhas razões para escolher a região equatorial são: 1) garantir observações uniformes e continuas do sol, da lua, dos planetas, aproveitando as condições mais favoráveis de altitude e visibilidade; 2) tornar possível um exame completo dos cometas, o que só pode ser feito no Equador; 3) tornar possível um estudo completo da Via Lactea, que é um dos mais atrahentes assuntos da moderna astronomia; 4) atacar o problema da «luz zodiacal», que até recentemente era o mais misterioso corpo visível no céo».

O dr. Yamamoto não revelou em que parte do Brasil ficará localizado o projectado observatorio

A GRIPPE

Diminuem os casos fatais

Acha-se em franco declínio a epidemia de gripe que durante trez semanas vêm assolando todo o Japão. Em Tokio, que consta-tou-se, a semana passada, elevado numero de 486 mil doentes, e a media diária de 60 obílos, decresceu sensivelmente, registrando-se agora sómente 18 mortos por dia.

Ainda a questão do Banco Japonez em Vladivostock

TOKIO, 27 — Segundo informações de fonte autorizada, é intenção dos Soviéticos de manter a ordem de fechamento da filial de Vladivostock do Banco Japonez. Diz-se que o governo de Moscou está inclinado a admitir a instalação alli, de um novo organismo bancário japonês, desde que lhe seja reservado o direito de inspecionar todas as transacções.

Desastres marítimos

• "Montevideu Maru" abalroado

Na tarde de 28, do mês passado, ao sahir do porto de Cap Town o navio japonês «Montevideu Maru», chocou-se com outro navio ficando avariado.

Tendo ancorado naquelle porto para os necessarios reparos alazará sua chegada á Santos 7 ou 8 dias.

O «Montevideu Maru» que pertence a Osaka Shosen Kaisha, é irmão gêmeo do «Rio de Janeiro Maru» que faz actualmente a carreira entre Japão e America do Sul. Felizmente não houve victimas a registrar.

• "Arabia Maru" collide com o "Takao Maru"

TOKIO, 2 — O paquete «Arabia Maru», que regressava de Vancouver abalroou, ao entrar no porto com o cargueiro «Takao Maru».

O «Arabia Maru» sofreu avarias que provocaram o sossobro do navio. A tripulação foi recolhida a bordo do «Takao Maru», não havendo victimas.

Na Sociedade das Nações

Um navio japonês accusado de contrabando de opio

A Comissão do Opio, reunida em Genebra a semana passada, ocupou-se com um caso tipico de contrabando desse narcótico.

Um navio japonês receberá de Bouchir um carregamento de 530 caixas de opio destinadas ao porto de Macau. Os embarcadores chineses recusaram-se a tomar parte no contrabando.

Dante da altitude dos marinheiros, o capitão do navio ordenou que fossem amarrados cinco dos tripulantes para serem conservados como refens e abandonou 19 outros ao leu das ondas, numa canoa. Estes, que lograram chegar a Sumatra, assim que desembocaram deram conhecimento do facto ás autoridades locaes.

Um navio japonês recebeu de Bouchir um carregamento de 530 caixas de opio destinadas ao porto de Macau. Os embarcadores chineses recusaram-se a tomar parte no contrabando.

Dante da altitude dos marinheiros, o capitão do navio ordenou que fossem amarrados cinco dos tripulantes para serem conservados como refens e abandonou 19 outros ao leu das ondas, numa canoa. Estes, que lograram chegar a Sumatra, assim que desembocaram deram conhecimento do facto ás autoridades locaes.

IMPRESSOS?

Executam-se com rapidez e perfeição na Secção de Obras do

"NIPPAK SHIMBUN"

Fábrica de Sacos de Papel para

Armazens, Bars e Confeitarias

Rua da Liberdade, 146 — Caixa, 375

Telephone, 2-3926 — SÃO PAULO

Finalmente resolvido o problema do Café

Em que bases está lançado o plano do governo federal

Como será aproveitado o "stock" de 18 milhões de sacas de café

Finalmente, a situação do café, que vinha em estado de profunda crise, vai sendo encarada com resolução pelos responsáveis pela orientação financeira de São Paulo e do país. O sr. Marcos de Souza Dantas, secretario das finanças de São Paulo, regressou após aprovado pelo governo federal o plano que fora submetido a julgamento, com a assistencia do proprio interventor, coronel João Alberto.

O PLANO

O plano apresentado tem particularmente em vista contornar um dos principais perigos da intervenção do Estado, no campo da economia comercial, e que seria a valorização. Assim, timbrou o seu organizador em baseado no proprio preço actual do producto em Santos, que representa uma queda de quasi 60% do preço excepcional da valorização artificial. E este preço é de 80\$000 livres por sacca, que corresponde aos 103\$000 ou 106\$000, com as taxas e demais despesas de transportes e armazenagem.

Dess'arte, o governo federal intervira desta vez, no mercado, para adquirir o grande "stock" de 18 milhões, em acordo com os governos dos Estados interessados, pagando, porém, o governo federal, de prompto, 60\$000 por sacca. Os restantes 20\$000 serão pagos em titulos, apólices emitidas pelos mesmos Estados, para um resgate de 20 a 30 annos, aos juros de 6%.

O plano, em vigor, no limite de 80\$000, eleva um pouco o preço real livre do producto. Mas é que, também, os seus ideadores consideram que, em compensação, tem o governo federal que exigir alguns novos sacrifícios da produção.

OS NOVOS SACRIFÍCIOS

Esses novos sacrifícios são o imposto de 1\$000 por pé novo de café plantado, a elevação do imposto territorial em S. Paulo de 1/2 para 1%, e o tributo em especie, que deve ser, para a nova safra, de 20%.

Essas são as linhas geraes do plano, que acaba de ser aprovado pelo governo federal, com a proposta do governo paulista, e apoio dos demais Estados cafeeiros.

O "STOCK" ADQUIRIDO

Adquirindo o «stock» de 18 milhões de saccas, o governo il-o-a lentamente dissolvendo, em colocações annuas de um milhão e meio. E com esse «stock», por esse tempo, manejalo-o o governo como uma quantia, até contra a valorização artificial do producto. E no caso de ser forçada a alta, poderá soltar o dique, sempre forçando um nível razoável nos preços.

Essa mola é encarada como a verdadeira alma do plano. E que se considera que o preço fixado de 80\$000 por sacca, não poderá estimular, de modo algum, as plantações lá fora, observando-se que a produção do café já começou a decrescer nas colonias holandesas. Assim, no proprio interesse de assegurar a hegemonia do Brasil, na produção do café, o governo não poderá consentir a elevação do preço, devendo fazer do «stock» o elemento regularizador.

O café proveniente do imposto em especie entra como elemento de experiência para uma política de expansão económica do Brasil. Não só o governo poderá rebeneficiar o volume de cada anno, aplicando-o tambem, quando for necessário, como elemento regularizador, como poderá tentar com esse café a entrada em mercados novos como a China, o Japão, a Russia. Se a pratica aconselhar e permitir a exportação do café já moido, isto se fará. De qualquer modo, a conquista desses mercados se fará.

Interesses financeiros do Japão na Inglaterra

Parte da imprensa financeira de Londres registra os boatos correntes de que será lançado naquele mercado o projecto japonês de conversão.

Os meios da City declaram, entretanto, que a noticia deve ser considerada prematura.

Os principes japonezes em Vienna

Vienna, 29, Janeiro — O principe e a princesa Takamatsu chegaram a esta cidade hoje, sendo recebidos pelo mundo oficial. Foi visitado e retratado a visita do presidente. Na segunda-feira irão ao baile da Concordia, que é uma das grandes funcções organizadas pelo presidente, e onde costuma comparecer a alta sociedade vienense.

Em Budapest, onde estiveram de manhã, o principe visitou o Parlamento, onde um orador interrompeu seu discurso para dirigir "uma saudação ao principe e distinto estrangeiro da terra do sol nascente". O principe agradeceu, inclinando ligeiramente a cabeça, quando recebeu uma ovacão de todos os presentes.